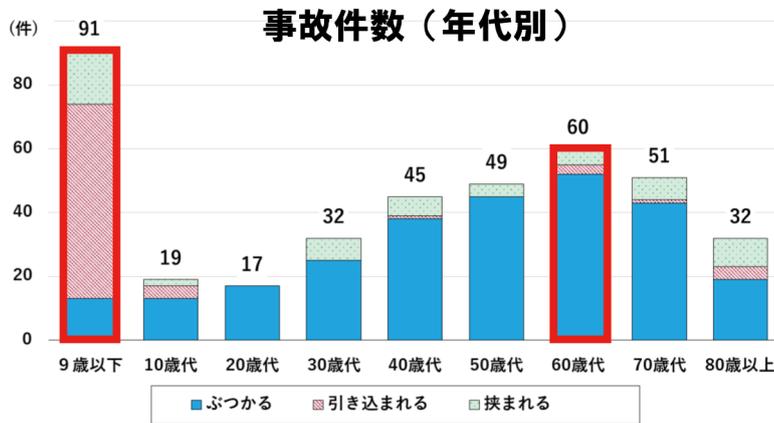


# 自動ドアによる事故を防ぐために ～建物所有者、管理者が知っておくべきポイント～

消費者安全調査委員会「自動ドアによる事故」調査報告書から

## 事故は子どもと高齢者に多く発生しています



## 主な事故要因

	人的要因	機械的要因
ぶつかる	駆け込み	センサー検出範囲不備
	斜め進入	センサー故障・劣化
引き込まれる	戸袋部進入	センサー検出範囲不備
	集合玄関等操作	自動ドア設計不良

※全国自動ドア協会の事故情報（2015～2018年度）を調査委員会が独自に分析。

### 「ぶつかる」事故は60歳代がピークで、高齢になると重傷事故が多い

ぶつかる事故が多く発生しているなか、高齢になると、閉まってくるドアにぶつかり転倒して骨折に至る事故となるケースが多い。

### 「引き込まれる」事故は9歳以下の子どもに多い

子どもがドアや戸袋部に手をついているときに、通行者に反応して開くドアや集合玄関機の操作により開くドアに、手を引き込まれる事故が発生している。

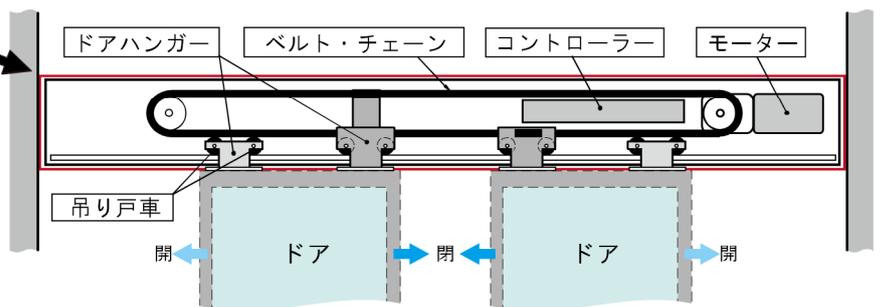
## 自動ドアの仕組み

### ドア上部に付いている起動センサーが人を検出してドアが開きます

- 人がセンサーの起動検出範囲（青線の領域）に入ると、ドアは開き始めます。
- 人がセンサーの起動検出範囲にいないと、開いたドアは、一定の時間が経つと閉まり始めます。



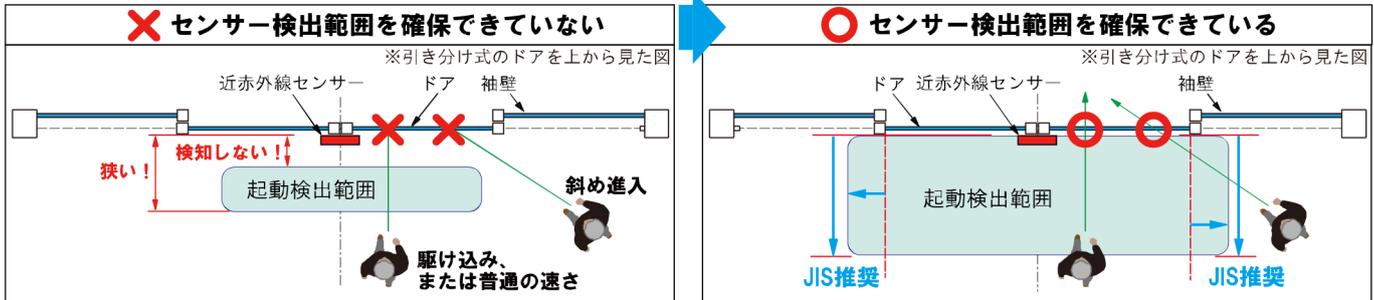
### 定期的な点検や交換が必要な部品があります



# 所有者または管理者がすべきこと

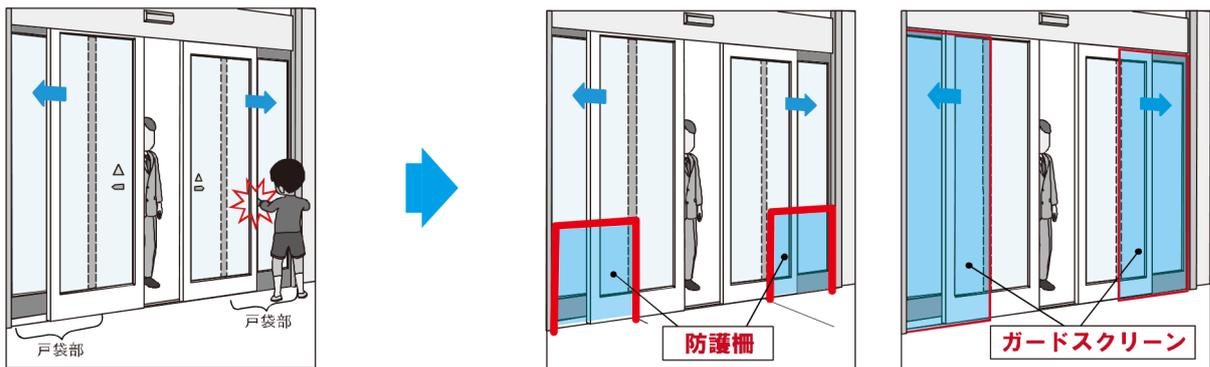
## ■センサー検出範囲を確保すること

- ◇製造業者や保全業者からセンサー検出範囲の測定値の報告を受けること。
- ◇JIS（JIS A 4722）や協会ガイドラインに推奨されている値を確保できない場合は、推奨値が確保できるセンサーへの交換を検討すること。



## ■引き込まれ事故について認識すること

- ◇子どもの手の引き込まれ事故の防止策として、戸袋部に手が届かないようにした防護柵やガードスクリーンがある。製造業者や保全業者から情報を入手し、対策を検討すること。



## ■保全点検を実施すること

- ◇自動ドアは、定期的な点検や部品の交換が必要です。
- ◇保全点検記録を適切に保管し、所有者や管理者が替わった場合でも引き継ぐこと。

## ■通行者への啓発資料を掲示すること

- ◇自動ドア関連団体等から提供を受けた「通行者への啓発資料」を掲示すること。

## ■安全に関わる情報を関係者間で共有すること

- ◇建築設計の段階から、関連JIS、協会ガイドライン及び事故関連情報などの安全に関わる情報を関係者間で共有すること。

## 自動ドアの安全に関する情報

- 全国自動ドア協会 <http://www.jada-info.jp/>
- 消費者庁 消費者安全調査委員会 [https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report\\_017/](https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_017/)



消費者安全調査委員会

令和3年6月25日

[https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report\\_017/](https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_017/)